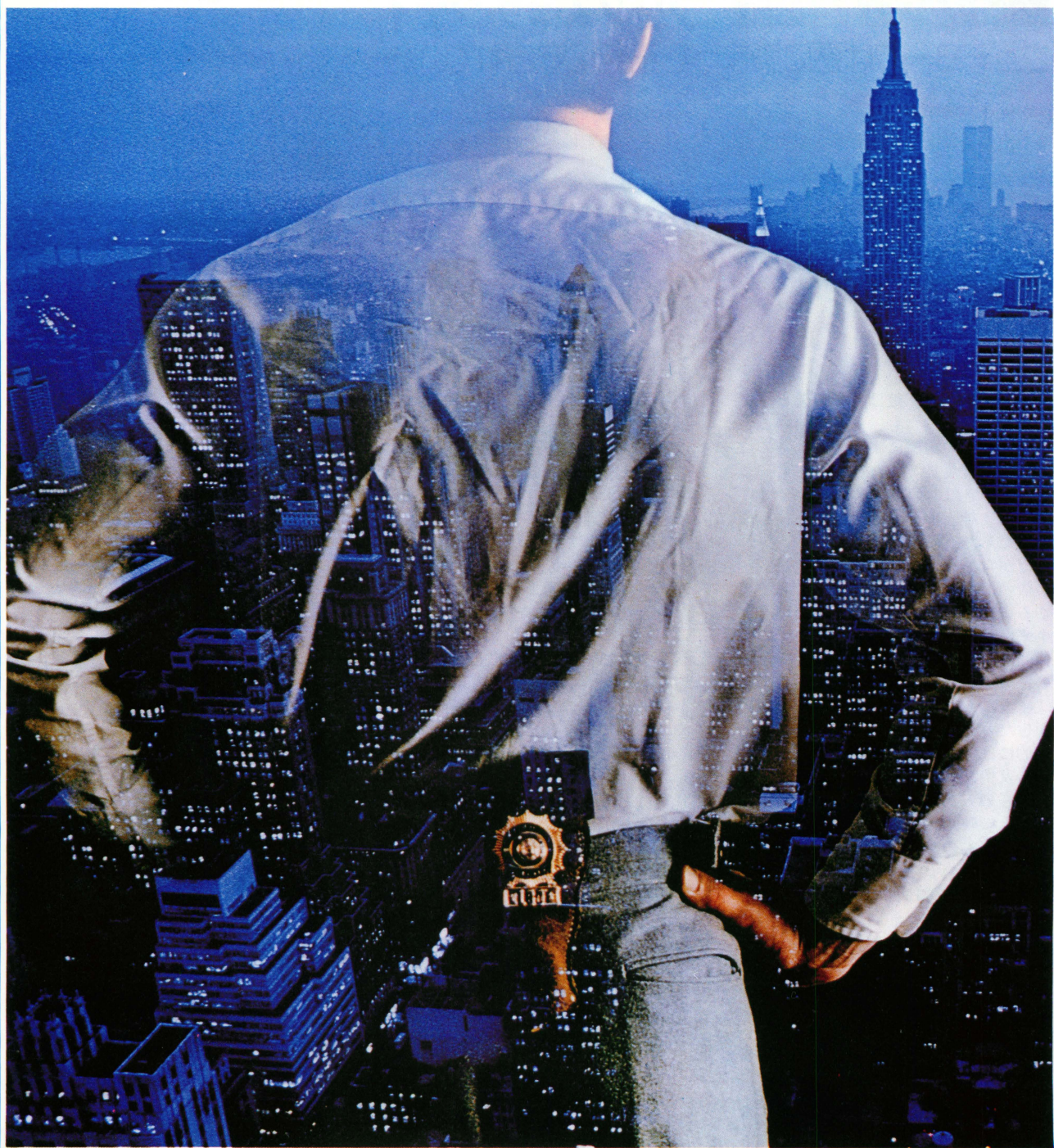


1982年ニューヨーク映画批評家協会最優秀監督賞受賞

全米マスコミが大絶賛！巨匠シドニー・ルメットが突きつける鮮烈の刑事物語



PRINCE OF THE CITY

プリンス・オブ・シティ

“プリンス・オブ・ザ・シティ”主演：トリート・ウィリアムス

製作総指揮：ジェイ・プレスン・アレン / 製作：バート・ハリス

脚本：ジェイ・プレスン・アレン & シドニー・ルメット / 原作：ロバート・デ일리 / 監督：シドニー・ルメット / パナビジョン® / テクニカラー®

オリオン映画＝ワーナー・ブラザース映画作品 / ワーナー・ブラザース映画配給 An ORION PICTURES Release / Thru WARNER BROS. A Warner Communications Company

NY映画批評家協会最優秀監督賞受賞/
ゴールデン・グローブ賞/作品賞/監督賞
主演男優賞の主要3部門にノミネート!

今年度アカデミー賞有力候補

PRINCE OF THE CITY

プリンス・オブ・シティ

ニューヨークは悪に染まった正義に守られていた..

世界一の犯罪都市ニューヨーク。ここでは警官さえもが、犯罪者を摘発するための手段として必要悪の犯罪をおこなっている。

なかでも麻薬捜査班のメンバーは、捜査のためなら金は使い放題、おのおのが完全な自治権を与えられていて、ニューヨーク市の中でなら何をやってもし一切とがめを受けることはないという人もうらやむそのエリートぶりから「ニューヨークのプリンス」と俗称されていた。

この映画の主人公もそんなプリンスの一人。しかし、彼は、必要悪としての犯罪を認めつつも、それをいいことに職権利用の汚職に走る警官たちのことは深く軽蔑していた。そしてもっと軽蔑すべきは警官たちの影にいて甘い汁を吸う紳士面の弁護士や地方検事や判事たちだ。

だから彼が〈警官汚職調査委員会〉の依頼に応じて、同業の人間たちを裏切るような行為に挺身し始めたのも、生来は善人ばかりだと彼が信じている仲間をおとしめるためではなく、他の軽蔑すべき連中を委員会の名のもとに槍玉にあげて、自分たちの汚名を挽回したいという気持からだだったが、結果的には仲間をも窮地に追いこみ、彼らの友情を裏切る形となってしまふ。

実在の人物ロバート・レウチの実話をもとに映画化したこの映画が、今までの警察ものから大きく隔絶した新しさを持っているのは、巨大な司法機構を盾に利用して独自の正義感をつらぬこうとしたエリート刑事が、逆に機構にその純粋な人間性を利用され、非情巨大な歯車にまきこまれて行かねばならなかった姿を、クールな視線でみつめていることだろう。

シドニー・ルメットが、ロバート・デیلیーによって書かれた実録を読んだとたん、ぜひ映画化は自分の手と

いう激しい熱意に駆られたのも、この物語の持っている、社会と人間の内面への鋭い肉迫に心を動かされたからであった。

シナリオを書いたのはルメット自身と、この映画の製作総指揮者でもあるジェイ・プレッソン・アレン。「キャバレー」や「ファニー・レディ」の脚色者としても有名な女性である。

主人公のダニー・チェロに扮するトリート・ウィリアムズは、「ヘアー」や「1941」で日本にもおなじみだが、ルメット監督がダニーを演じる俳優としてまず頭に浮かべたのはトリートであった。「ヘアー」で彼が見せたタフさとナイーブさをあわせ持つ異色の個性もさることながら、監督は、この役に顔の売れた大スターを当てることで市井の一刑事ダニーのイメージがそこなわれるのを恐れていたからである。

映画デビュー以来の初の大役を受けとめて、撮影開始までもトリートの努力も大変であった。まず彼は、数週間にわたって連日ニューヨーク市警マンハッタン23管区に顔を出し、ほんものの麻薬捜査刑事たちとともに夜の町をとびまわること、この世界の裏側をくまなく学びとった。

それからあとの1ヵ月をロバート・レウチとともにすごすことで、彼は警官であると同時に人間でもあるレウチの生きかた、考え方を、自分のものにしていったのである。

他の登場人物にも、ルメットは既存の映画スターの起用を避け、ニューヨークの舞台で高い声価を持つ名優たちを揃えたほか、演技経験のまったくない人々をも、その風貌と個性を買って主要な役にキャスティングして、狙いどおりの生ま生ましい演技を彼らから引き出している。

■キャスト■

ダニエル・チェロ.....トリート・ウィリアムズ
ガス・レビー.....ジェリー・オーバック
ジョー・マリナロ.....リチャード・フォロンジー
ビル・メイヨ.....ドン・ビレッジ
トム・バンド.....ケニー・マリノ
ジノ・マスコーネ.....カーマイン・カリディ

■スタッフ■

監督.....シドニー・ルメット
製作.....ロバート・ハリス
製作総指揮.....ジェイ・プレッソン・アレン
脚本.....ジェイ・プレッソン・アレン
.....シドニー・ルメット
原作.....ロバート・デیلیー

殺到した全米マスコミ評!

●タイム・マガジン

情無用の怖ろしい映画! ルメットという人は主演俳優からしばしば衝撃的ともいえる演技を引き出してきたが、今度の映画ではトリート・ウィリアムズが、『セルピコ』のアル・パチーノや『ネットワーク』のピーター・フィンチらの列に加わった。『プリンス・オブ・シティ』は3時間弱という実に長い映画だ。しかし、ただの1コマなりとも削れない。

●ニューヨーク・タイムズ

エキサイティングにして感動を残す。ルメット監督の無駄をきらい態度には、ただただ舌を巻くしかない。

●ニューヨーク・ポスト

珠玉の映画! まさに秀抜である。ここ50年間の犯罪—警官—腐敗を描いてきた映画群は、単なる代用品にしかすぎなかった。

●プレイボーイ

切れ味の鋭い映画 みごとだ!

●AP

エネルギーみなぎる映画! 確実に本年度ベストの映画の一本である。

●ニューヨーク・マガジン

ケタがいの、とてつもない映画! ドラマの構成、熱っぽいわけつき、息もできないまでにつのってくる重圧感、すべて、すべて、ルメットと脚本家、ジェイ・プレッソン・アレンの力による。興奮してしまう。

●ニューヨーク・デیلیー・ニュース

約3時間もの間スクリーンに神経を釘づけにさせる。人間性の複雑さをまるごと感じさせる映画が、これまでにあったらうか? 鋭い性格研究の上になった作品。驚くべき大胆な映画だ!



3月上旬ロードショー

有楽町
もと日劇前

ニュー東宝シネマ1

(571)
1946

特別鑑賞券¥1200 (当日一般¥1500の処) 発売中!

日・祝	11:15	2:30	5:45
平日	11:45	3:00	6:15